

ヨシムラ“刀1135R”の最新鋭が来る!



ヤマシ×ヨシムラ
MONKEY 125

YAMAHA MACHINE

特別付録

'19最新ヘルメット
カタログ

NEW!
75
MET



Scoop!

ヨシムラ KATANA改

“令和の怪物” 緊急キャッチ!

- オリジナル外装
- 燃料タンク容量拡大?!
- フルチューンetc...



2019
Jun
6

880yen

NEW MODEL + NEW ITEM TEST & CATALOG

令和元年新作特報

好調の新生ミドル徹底分析

試乗
TEST

- HONDA CBR650R×CB650R
- HONDA CBR400R×400X
- KAWASAKI W800 CAFE×STREET

- YAMAHA YZF-R25
- KAWASAKI VERSYS 1000 SE
- YAMAHA TMAX 530 DX×XMAX
- SUZUKI KATANA

海外試乗速報

- DUCATI DIAVEL1260/S
- KTM 790 ADVENTURE/R
- ROYAL ENFIELD CONTINENTAL GT 650 INT 650

爆選! 最新カスタムパーツ大全

革命! 冷&暖 エアコンベスト 着回し エアバッグベスト

SNS運動企画 #ヤマシ写真部 爆誕!!

カーボンテーパーハンドル仕様も



point

↑3月の東京MCショーで同社が展示した、Gストライカー製ステアリングステム+ハンドルとバックステップ。前者はZ900RS用で、トップブリッジにはバーハンドル用ブラケットを装備する。カーボン素材のテーパーハンドルは試作品で、製品化は現時点では未定。

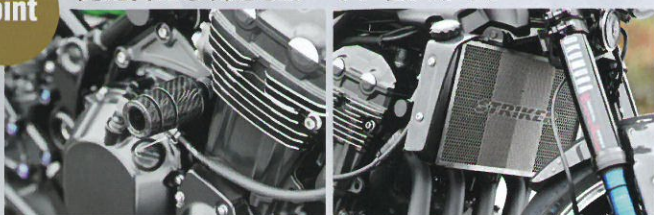
操作性重視の4ポジション&フラットバー



↑オプションのワイドヒールガードを装備したバックステップは4ポジション式。ツアリングでの快適性を意識したフラットタイプのバーは、アフターマーケットでは珍しい形状だ(オプションとしてオーソドックスな円筒型も存在)。シフトロッドの途中には、寺本自動車のEZ-SHIFTER用センサーが備わる。

point

見た目にも映えるカーボン製スライダー



↑転倒時の保護用として、エンジン左右に装着されたガードスライダーはカーボンコンポジット製。コストを抑えたジュラコン製も存在。

↑ステンレス製ラジエターガードは中央と左右で異なるメッシュを採用。カーボンラジエターシェラウドは走行風の流れを意識して開発。



身長170cm
体重70kg

↑見た目は戦闘的になったものの、ライオジは今どきのスポーツネイキッドより上半身の傾きが少し強いかな……という印象で、そんなにスバルタンではない。この乗車姿勢なら、ツアリングや街乗りも気軽に楽しめるだろう。

point



セパレートハンドルは4ポジション式
↑削り出しのステムはギルドデザインとのコラボ品で、大胆な肉抜きが施されたトップブリッジは逆ウイング型。セパレートハンドルはタレ角と高さが2段階に調整可能。一般的な体格のライダーならストリート/Hiの位置を選べば、日常域でも不満を感じることはないだろう。

point



MEチューニングで足まわりの印象が一変

↑スクーデリアオムラがMEチューニングを施した前後ショックは、純正がベースとは思えないほど、良好な作動性を実現。スポーツライディング時の手応えが明確になっただけでなく、路面の凹凸の吸収性も格段に向上している。フロントフェンダーはカーボン製。



強くしなやかなスイングアームも見所



↑今回は未装着だが、ギルドデザインとの共作となるスイングアームも注目の逸品。縦剛性は高く、横方向はしなりを持たせた旋回しやすい特性となっている。純正品から+250mmのリアフェンダーは、雨天走行時の快適性を向上(※G-STRIKERスイングアームにリアフェンダーを装着する際は加工が必要となります)。アルミ削り出しのフェンダーレスキットも入念な作りこみだ。

排気系は好みに応じて選択可能



↑チタン製EXシステムは集合部にセパレーターを備える4-1式で、エキパイはコニカルテーパー。STDのような消音用チャンバーは装備しない。表面仕上げはセラコートグレーシャープブラックとチタンソリッド、サイレンサーは真円と異形断面OFF-TYPEを設定。

ROAD IMPRESSION 前輪荷重の増加で乗り味が激変!!

Z900RSの資質を語るうえで、レトロやノスタルジックなどという言葉がよく使われる。でもストライカーのマシンに乗って、そんな言葉を思い浮かべる人はいないだろう。何と言っても同社のデモ車は、現代ならではの走りを楽しめるスポーツバイクとして、きっちり仕上げられているのだから。排気系の変更で加減速の楽しさが増したことや、前後ショックの見直して車体の動きが上質になったこと、ブレンボの導入でブレーキタッチがリアになったことなど、このマシンはSTDとは一線を画する数多く

の美点を備えている。しかし、今回の試乗で僕が最も感心したのは、ライオジ関連パーツの刷新を主因とする、前後重量バランスの最適化だった。荷重が後ろ寄りのSTDに対して、程よい塩梅でフロント荷重が増したデモ車は、前輪のグリップ力と倒立フォークの剛性を積極的に活かした、現代的な走りが楽しめるのである。とは言っても、近年のスーパースポーツように尖っているわけではない。ストライカーのZ900RSは、乗り手の技量や走る場面を問わない、守備範囲が広いスポーツバイクなのだ。(中村友彦)

STRIKER
ストライカー Z900RS



Z900RS
KAWASAKI
/CAFE

運動性能が
飛躍的に向上!



【主要装着パーツリスト】 ■ストリートコンセプトフルエキゾースト・チタンブラックライン 27万円 ■スポーツツアリングコンセプト「STC」ステップキット 6万2640円 ■オリジナルタンデムステップバー「STC」KAWASAKIタイプ1 1万8360円 ■アルミベレットフェンダーレスキット 2万3760円 ■ラジエターコアガード 2万520円 ■アクスルスライダー(フロントフォーク用) 9180円 ■ガードスライダー、カーボンコンポジット 2万7000円 ■エアロデザイン「SAD」カーボンフロントフェンダー 3万4560円 ■エアロデザイン「SAD」カーボンリアフェンダー 4万1040円 ■エアロデザイン「SAD」カーボンラジエターサイドシェラウド 2万3760円 ■ストライカーオリジナルカスタムシート加工 2万2680円 ■G-ストライカー用スイングアーム 19万4400円 ■G-ストライカーセパレートハンドルキット+アンダープレートセット 17万3800円 ■サンスターフローティングディスクワークスエキスパッド 11万8800円 ■スクーデリアオムラMEサスペンションチューニング、フロント5万6667円〜/リヤ5万2984円 ■TM-カレージオリジナルオールインワン 13万8240円 ■ブレンボRCSブレーキマスターシリンダー 6万2640円 ■ブレンボ・フロントブレーキキャリア 6万1000円 ■ビレリ・ディプロスパーボールサ 5万7000円 (※すべて8%税込価格) ©カラスインターナショナル ☎045-949-1345 http://striker.co.jp

SZ-019 [Basic Package]



カスタムコンプリート車も選べる
↑カスタムコンプリート車のSZ-019は、スポーツライディングに的を絞って開発。ベーシックパッケージの価格は198万円(税込み)。

Z900RSの可能性を示すカスタムコンプリートマシンとして、今春からSZ-019の発売を開始するカラズインターナショナル/ストライカー。ここに紹介する車両は、その開発ベースと言うべきデモ車で、コンプリートマシンではオプション扱いの部品を各部に装着しているものの、基本構成はSZ-019とほぼ共通である。STDと比較した場合、このマシンで多くの人が最初に興味を惹かれるのは、セパレートハンドル/バックステップ/オリジナルシートの投入によって、一新されたライディングポジションだろう。これらはSTDでは体感しづらい、Z900RSの潜在能力を引き出すために生まれたパーツなのだ。そして潜在能力を引き出すという意味では、爽快感が吹け上がり、満喫できるオールチンナップライダー、剛性バランスを最適化するステアリングシステム&スイングアーム(撮影時は未装着)、多種多様なアルミ削り出し/カーボンパーツなども、狙いは同様である。もちろん、同社のデモ車とコンプリートマシンが採用するすべてのオリジナルパーツは、単品販売も行われている。

STDとは一線を画する
抜群の運動性と爽快感